



2015年度 第3回 一橋大学政策フォーラム

フューチャー・デザイン

～七世代先を見据えた社会の構築を目指して～



「仮想将来世代」の概念が注目を集めている。持続可能な社会を構築するため、今は存在しない将来世代の視点・利益を反映した意思決定をしようという試みだ。新たな社会を創造する枠組み「フューチャー・デザイン」を考えるフォーラムが12月中旬、東京・一ツ橋の一橋講堂で開かれ、専門家が最新情報を報告した。

第一部 フューチャー・デザイン：仮想将来世代の可能性

フューチャー・デザイン 仮想将来世代の可能性



一橋大学経済研究所教授・
日本学術会議会員
西條 辰義氏

市場原理、民主制、個人が持つ素直性は将来世代にまで利益を配分しない。むしろ、その要素が絡み合い、我々は

仮想将来世代との共創による 未来ビジョン形成と地域実践 新しい社会秩序をデザイン



大阪大学環境イノベーション
デザインセンター特任准教授
原 圭史郎氏

持続可能な社会を導くためには、今の課題に対して、この世代が負担するの譲歩しなければならぬ。だが、将来

彼らは重要な意思決定の際、7世代後の人々になりきった。我々にはない発想だ。

矢巾町における住民参加型水道事業 ビジョン策定とフューチャー・デザイン インフラ整備に将来像必要



岩手県矢巾町役場
上下水道課係長
吉岡 律司氏

水道の費用構造の大半は、水道管、浄水場の固定費だ。人口減で水の使用量が減って、コストの総額は変わらな

当初は水道料金の値下げを主張したが、安全な水の供給が求められた。その後、施設を見直し、老朽化の現状を説明、ワークショップを通じて水道への理解を深めた。住民に変化が求められ、水道料金改定を望む声が上がった。

ドメイン投票と フューチャー・デザイン



高知工科大学フューチャー・
デザイン・研究センター・
ディレクター兼教授
肥前 洋一氏

個人の属性も判断傾向も影響を与える。例えば子供を持つ親は、将来世代をよりおも

「ドメイン投票」という方式があり、将来志向の選挙制度として議論になっている。投票権を持たない子供を持つ

将来世代の視点で意思決定

フューチャー・デザインは なぜ必要か

現行社会保障制度を見直す



一橋大学経済研究所教授
小塩 隆士氏

過去30年間の政府支出の対国内総生産（GDP）比の上昇は、社会保障給付の増加だけでは説明できる。財政政

将来省の可能性

政府が難しくければ地方から



大阪大学環境イノベーション
デザインセンター特任准教授
上須 道徳氏

2000年以降に始まった「サステナビリティ学」には、このままでは持続不可能な状況になるという研究と人

講演者8人による討論



小塩 仮想将来世代の重要性について聞きたい。

小塩 仮想将来世代はどのような立場で話すべきか。

原 非常に重要なポイントだ。将来の社会状況は大きく変わっているだろう。専門家も関わりつつ、複数の将来シナリオを描いた上でビジョンをつくる必要がある。

将来ビジョンを持つ

小塩 現代と将来世代の利害対立をどう調整すればよいか。

上須 そもそも将来世代の意見を採り入れる理由を考えた。まずは、将来という社会をつくりたいかを考える必要がある。

技術進歩の速さ考慮

森口 現代は科学技術の変化のスピードがあまりにも速い。現在の情報で将来世代のことを代弁できるかどうか

上須 民主制とは単に選挙権の問題ではない。過去には市民といえども、身分、納税額、性別の垣根があった。現代社会においても、まったくの平等ではない。よりよい制度を構築していくべきだ。

専門家には市民支援を

西條 民主制とは、現代の利益を保障するシステムだ。専門家だけの集まりである審議会には問題があり、専門家が市民のサポーターになることが大切ではないか。

災害復興から見た 将来デザインと学際連携

減災省への改組より将来省へ



東京工科大学
工学系研究科教授・
日本学術会議連携会員
森口 祐一氏

東日本大震災以降、日本学術会議は様々な分野で提言を発信してきた。ある提言では「将来」という言葉は、主に

イノベーションと フューチャー・デザイン

将来省が将来世代見据え資源分配



九州大学理事副学長・
日本学術会議会員
青木 玲子氏

我々の生活を向上させるためには、新しい製品やサービスの質の向上のほか、生産能力を拡大させるためイノベ

広告

主催：一橋大学・一橋大学経済研究所
共催：科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域平成27年度採択プロジェクト企画調査「仮想将来世代との共創によるビジョン設計・合意形成手法の検討」（代表・原圭史郎）
科学技術振興機構（JST）フューチャー・アース構想の推進事業「フューチャー・アース：課題解決に向けたトランスディシプリナリー研究の可能性調査」平成27年度採択課題「持続可能な社会へのトランスフォーメーションを可能にする社会制度の変革と設計」（代表・西條辰義）
後援：日本学術会議
お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム <http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html>